

江南市廃棄物減量等推進協議会 平成 26 年度第 3 回会議会議録(概要)

●日時 平成 27 年 2 月 17 日 (火) 午後 2 時～午後 3 時 50 分

●場所 江南市防災センター 2 階 防災セミナー室

●出席委員(18 名)

会 長 岩 井 喜 美 子	副会長 前 田 幸 男
委 員 森 下 謙 一	委 員 松 田 利 宣
委 員 尾 関 順 久	委 員 青 山 和 子
委 員 岩 田 英 次	委 員 川 崎 晴 功
委 員 三 輪 專 治	委 員 春 日 井 久 敏
委 員 青 山 滿 宏	委 員 楓 健 年
委 員 水 野 祐 助	委 員 古 田 一 弘
委 員 長 岡 吉 男	委 員 荻 谷 有 朗
委 員 藤 田 泰 雄	委 員 堀 場 敏 之

●欠席委員(11 名)

委 員 添 田 祐 一	委 員 伊 神 鋭 康
委 員 竹 島 允 子	委 員 村 瀬 雅 己
委 員 古 田 一 二 三	委 員 寺 澤 佳 訓
委 員 柳 田 恭 彦	委 員 望 月 晴 夫
委 員 松 井 淳 司	委 員 尾 関 安 巳
委 員 阿 部 真 弓	

●事務局

環 境 課 長 石 川 晶 崇
環 境 課 主 幹 梅 本 孝 哉
環 境 課 副 主 幹 相 京 政 樹
環 境 課 主 任 長 崎 紘 樹
環 境 課 書 記 堀 場 大 貴

●会議経過

■議題①平成 26 年度協議会活動報告について

○会長

議題①について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

平成 26 年度廃棄物減量等推進協議会事業報告について、説明させていただきます。

協議会の活動として、協議会、特別委員会、そして協議会委員が主な構成員となっている環境フェスタ江南実行員会の活動について報告します。

今年度は、廃棄物減量等推進協議会の会議を 3 回、視察研修会を 1 回実施しました。特別委員会は会議を 2 回実施しました。環境フェスタ江南実行委員会役員会は 4 回開催しました。

廃棄物減量等推進協議会の会議は、第 1 回を 5 月 26 日、第 2 回を 10 月 2 日に開催しました。第 3 回は本日開催です。第 1 回会議の終了後には、ごみ減量啓発の活動を実施しました。市内 4 か所のスーパーマーケットで啓発チラシ入りのポケットティッシュ配布を委員の皆様のご協力のもとに実施いたしました。

次に、廃棄物減量等推進協議会の視察研修会について申し上げます。1 月 29 日に株式会社エフピコのトレー及びペットボトルのリサイクル施設を視察しました。視察研修会の結果につきましては後ほど報告いたします。

次に、特別委員会の会議ですが、第 1 回を 11 月 7 日、第 2 回を 2 月 10 日に開催しました。特別委員会の活動につきましては後程報告いたします。

次に、環境フェスタ江南実行委員会の会議等ですが、10 月 25 日、26 日の環境フェスタに向けて、役員会を 7 月から 3 回開催し、第 1 回を 7 月 1 日、第 2 回を 8 月 21 日、第 3 回を 10 月 7 日に開催しました。環境フェスタ終了後に第 4 回を 12 月 18 日に開催しました。合計で 4 回開催しました。

○会長

事務局から報告がありましたが、それに対して、質問等ございませんか。

○会長

質問等がないようですので、続けて、議題②について、事務局から報告をお願いします。

■議題②平成 26 年度特別委員会活動報告について

○事務局

今年度の特別委員会の活動について報告します。今年度は会議を2回実施しました。

11月7日に第1回会議を開催し、ごみ処理基本計画策定に当たって実施した「住民意向調査・事業系廃棄物実態調査」の結果について、報告及び意見交換を実施しました。また、ごみ処理基本計画の素案についても、報告及び意見交換を実施しました。

2月10日に第2回会議を開催し、江南市ごみ処理基本計画改訂版の案の内容及びパブリックコメントの結果に関する意見交換を実施しました。また、レジ袋収益寄付金の収入支出状況等について、事務局から報告しました。

次に、資料3ページをご覧ください。レジ袋削減有料化協定を締結した企業の一部から、寄付金等を受けて、それを環境フェスタ江南で活用しておりますが、今年度の収入支出状況について報告します。

平成26年度は、収入の部として、前年度繰越金が371,348円、株式会社平和堂からの寄付金が128,000円、株式会社ヤマナカからの寄付金が32,814円、その他利息が57円で合計532,219円となっています。次に支出の部ですが、環境フェスタへの寄付金として、スタンプラリーや廃棄物減量等推進協議会展示で景品として配布したボックスティッシュの購入費相当額167,508円の支出となっています。収入支出の差引残額は364,689円となっています。

次に、平成26年度に受領した寄付品ですが、ユニー株式会社から種子、プランター、培地等180セット、堆肥200袋の453,615円相当額の物品を受領しています。寄付品は、市の緑のカーテンチャレンジに関する事業で使わせていただいています。

平成26年度廃棄物減量等推進協議会事業報告につきましては、以上でございます。

○会長

江南市レジ袋削減推進委員会収入支出状況について、報告いただきました。レジ袋削減に伴う寄付金を現在、環境フェスタ江南の廃棄物減量等推進協議会のブースで参加賞として配布するボックスティッシュを購入する費用に充てていますが、今後は収入支出差引残額が増えていくことが予想されます。どのような対策を事務局は考えているのですか。

○事務局

平成26年度は、前年度繰越金と収入支出差引残額が同じくらいの金額でしたが、次年度以降、収入支出差引残額が増えることのないように、環境フェスタ江南でボッ

クスティッシュ以外の費用に充てるなどの対策を考えていきたいと思えます。

■議題③市制 60 周年記念環境フェスタ江南 2014 事業報告について

○会長

続けて、事務局から議題③について、報告をお願いします。

○事務局

市制 60 周年記念環境フェスタ江南 2014 の事業報告について説明させていただきます。環境問題に対する全市的な取組みを推進し、市民一人ひとりに環境問題についての理解を深めてもらうことを目的として、実施しました。

次に、主催及び後援、並びに協賛ですが、主催は、江南市、環境フェスタ江南実行委員会、後援は江南市廃棄物減量等推進協議会、愛知県、ごみゼロ社会推進あいち県民会議でした。協賛は、株式会社愛北リサイクルを始めとする 33 の企業、団体でした。

実施月日は、平成 26 年 10 月 25 日と 26 日の 2 日間でした。

次に、入場者数ですが、25 日が 5,000 人、26 日が 4,000 人ということで発表しております。

次に、事業内容ですが、主要なものを報告させていただきます。

まず、開催式・環境表彰式ですが、野外ステージで実施しました。

次に、「体験・参加型イベント」ですが、カレーうどん無料提供コーナーでは、2 日間で来場者のほか、出展者やボランティアの方にカレーうどんを提供しました。

次に、江南市廃棄物減量等推進協議会の事業内容ですが、ごみの減量に関する展示と来場者へのアンケート調査、ごみ減量に関する説明を実施しました。廃棄物減量等推進協議会委員の皆様が企画から当日の運営まで実施していただき、多くの来場者が参加した取り組みでした。

次に、環境フェスタ江南実行委員会平成 26 年度決算書について説明させていただきます。まず、収入の部ですが、江南市からの委託料が 1,560,000 円、レジ袋有料化収益寄付金が 167,508 円、協力金のフリーマーケット出店料が 21,500 円でした。収入済額の合計は 1,749,008 円でした。次に、支出の部ですが、報酬が 110,000 円、需用費が 670,559 円、役務費が 38,458 円で、使用料及び賃借料が 715,836 円で合計が 1,534,853 円でした。その結果、収入支出差引残額は 214,155 円でした。この残額は 12 月に市へ返納しております。

続きまして、10 ページをご覧ください。こちらは、物品提供者、廃棄物減量等推進協議会展示の参加者数、スタンプラリーの参加者数、カレーうどんマイはし持参者数、使用済小型家電回収の実施結果について掲載しております。内容については後ほど委員の皆様各自でご確認いただきたいと思います。

市制 60 周年記念環境フェスタ江南 2014 の事業報告について、事務局からの報告は以上でございます。

○会長

事務局から報告がありましたが、それに対して、質問等ございませんか。

質問等がないようですので、続けて、事務局から議題④について、報告をお願いします。

■議題④平成 26 年度協議会視察研修会報告について

○事務局

平成 26 年度協議会視察研修会の結果について報告させていただきます。

1 月 29 日にトレーを製造する株式会社エフピコのリサイクル工場を視察しました。岐阜県輪之内町にある再生トレーを製造する工場で、廃棄物減量等推進協議会の 11 名の委員が参加されました。

当日の内容ですが、株式会社エフピコの環境対策室の方から、説明を受けた後、使用済みトレーや廃ペットボトルから、再生トレーを製造する工場内の見学を実施しました。

説明をいただいた内容について、一部を資料に掲載しておりますが、一部を紹介させていただきます。

平成 2 年から「エフピコ方式」という回収した使用済みトレーから再び、トレーを製造する取り組みを実施しているとのことでした。消費者とスーパーなどの店舗、包装材料の間屋、エフピコの 4 者が一体となってリサイクルに取り組んでいるということでした。

エフピコ方式の内容について説明します。まず、消費者が洗浄・乾燥した使用済みトレーをスーパーマーケットなど店舗の回収ボックスに返却します。その後、包装材料の間屋が店舗にトレーを納品した帰りの便を利用して、店舗で回収された使用済みトレーを回収するということです。その後、エフピコが、間屋にトレーを納品した帰りの便で、使用済みトレーを回収するということです。

株式会社エフピコの使用済みトレーの回収率は29%となっているということです。

平成20年からは、透明容器を回収してリサイクルする取り組みも実施しているということです。数種類ある透明容器の素材に近赤外線を当てて選別する機械を開発して、素材別に分別してリサイクルしているということでした。また、廃ペットボトルから再生透明容器を製造する取り組みも行っているとのことでした。

その他、障害者雇用に積極的に取り組んでいて、障害者雇用率は16%であり、全国で最も高くなっているということでした。

今回の視察研修会で見学した株式会社エフピコは、積極的にリサイクルに取り組む企業で、参考になる内容だったと思います。

平成26年度協議会視察研修会の結果に関する報告は以上とさせていただきます。

○会長

多くの方に参加いただきました。エフピコの工場は、非常にきれいな施設でした。障害者雇用に積極的なことなどの説明もありました。

○委員

回収されたペットボトルが工場の周囲に山積みになっていました。その中には、自治体から回収されたペットボトルもありました。

エフピコの工場で、白いトレーと柄付きのトレーの違いなど詳しい説明がありました。また、工場の周囲に臭いがまったくなく、工場が清潔だと思いました。

○副会長

エフピコ方式は、無駄のない非常に良い方法だと思います。これまでにない方法を考えた点などについて、感心しました。

○会長

納品した帰りの便を利用して、使用済みトレーを回収するという方式に関心を持ちました。この方法を江南市の剪定枝と草の収集とリサイクルに応用できるのではないかと思います。剪定枝を破碎した後に堆肥を作る工場に搬入していますが、その帰りの便で、市の公共施設等で使用する堆肥を運んでくるというシステムを作ることも考えられます。

○事務局

剪定枝と草から生産された堆肥を、江南市で利用するのは、効率的で目指すべき姿だと思います。

○会長

リサイクルされた堆肥を、剪定枝を排出した江南市で使用するについて、前向きに検討していただきたいと思います。

花いっぱいコンクールの表彰で堆肥を購入しているようです。レジ袋有料化収益寄付金を花いっぱいの活動などに使用することも検討していただきたいと思います。

○事務局

レジ袋有料化収益寄付金を花いっぱい活動などに使用するについて、検討させていただきたいと思います。

■議題⑤江南市ごみ処理基本計画について

○会長

議題⑤について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

13 ページから最後のページまでが、ごみ処理基本計画に関する資料になります。全体を通して説明させていただきたいと思います。まず、13 ページをご覧くださいと思います。上段に「計画策定の背景と目的」、下段には「現行計画の目標達成状況」を掲載しております。

まず、「計画策定の背景と目的」は次のとおりです。

「本計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条第1項に基づき策定するものであり、環境基本法に基づく環境基本計画等との整合を図り、今後の廃棄物行政における長期的・総合的な指針となるものです。江南市においては、現行のごみ処理基本計画を平成21年3月に改訂し、平成24年度を中間目標年度、平成29年度を目標年度として、ごみの減量化、循環型社会の形成に向けた様々な施策に取り組んできました。その結果、ごみの排出量が減少するなど、一定の成果が出ています。今回、ごみ処理を取り巻く考え方や法制度の動向、住民・事業者の意向を反映し、江南市において一歩進んだ循環型社会の実現を目指すため、ごみ処理基本計画を改訂します。なお、計画期間は平成27年度から平成36年度までの10年間とし、計画期間内であっても、社会情勢が大きく変化した場合には、適宜見直しをします。」

「計画策定の背景と目的」では、これまでよりも一歩進んだ循環型社会の実現を目指すことを目的として、ごみ処理基本計画を改訂することを記しております。

次に、「現行計画の目標達成状況」ですが、こちらは、1人1日当たりのごみ排出量

を表しております。現行の計画では、平成 19 年度の実績値が基準値となっております。家庭系ごみが 463 g、事業系ごみが 138 g で、平成 25 年度の目標値は、平成 19 年度の実績値を維持するという目標になっていました。その目標に対して、平成 25 年度の実績は、家庭系ごみが 433 g、事業系ごみが 138 g といずれも達成しているということを表したものとなっております。

次に、14 ページをお願いします。14 ページの掲載事項ですが、上段が、「新たな計画の基本的事項」、中段が「計画人口」、下段が「計画の数値目標」となっております。

「新たな計画の基本的事項」は次のとおりです。

「江南市では従来実施してきた施策に加え、循環の質にも着目した取り組みを進めるべき段階に入ってきていると考え、これまでより一步進んだ循環型社会の実現を目指して、計画の基本理念と計画期間及び基本方針と基本的な施策を以下のように設定します。」

計画の基本理念は、「環境負荷を最小限に抑え 資源を有効活用する 協働・循環型のまち」としております。計画期間は、平成 27 年度からの 10 年間ということで、計画初年度の 27 年度、中間目標年度の 31 年度、目標年度の 36 年度を表示しております。

次に、中段の計画人口ですが、平成 25 年度の実績と比較して、江南市の人口は徐々に減少すると見込まれています。

下段の計画の数値目標ですが、家庭系ごみの 1 人 1 日当たりの目標値は、右側の表の右 2 列になりますが、平成 31 年度、36 年度ともに 427 g、事業系ごみの 1 人 1 日当たりの目標値は、平成 31 年度、36 年度ともに 136 g と設定をしております。

次に、15 ページをお願いします。こちらは、「基本理念の達成のために」ということで、4 つの基本方針とそれぞれの基本方針を達成するための施策を基本的な施策として掲載をしております。基本的な施策につきましては、後ほど、具体的な活動の内容も説明させていただきたいと思っております。

最後に、16 ページをお願いします。こちらは、「計画の推進体制」ということで、3 つの小見出しを記載しております。

1 つ目は、「市民・事業者・行政の組織体制の活用」ということで、江南市廃棄物減量等推進協議会と廃棄物減量等推進員を記載しております。

江南市廃棄物減量等推進協議会は、2 年前から環境フェスタへブースを出しまして、

活動の場を広げております。計画では、市民・事業者・行政の協働による循環型社会の実現を目指すことを謳っておりますので、今後も、発展的に活動できるような場が提供できればと思っております。

廃棄物減量等推進員、主に各区の区長やPTA会長、子ども会の会長などに委嘱をさせていただき、資源物の集団回収等でご協力をいただいているものでございます。今後も引き続き、推進員とも連携をとって、計画を推進していくことを明記したものでございます。

次の、「市内組織体制の確立」については、次のとおり記載しております。

「廃棄物の減量及び適正処理を長期的かつ総合的に進めるとともに、各部の相互連携により横断的な事業の展開を行うため、必要に応じて、廃棄物減量対策委員会およびリサイクル推進委員会を開催していきます。」

近年は、このような組織は特に設置をしておりませんが、各部の相互連携による横断的な事業の展開というのも念頭において、今後の廃棄物の減量及び適正処理を進めていかなければならないと考えております。例えば、公共施設から出る剪定枝・草などの処理や市内各所で発生する不法投棄対策などにおいても、必要になってくる連携だと思っております。

最後の「広域処理体制の強化」については、次のとおり記載しております。

「現在、可燃ごみ、プラスチック類、粗大ごみ等は、江南市、大口町、扶桑町で構成する江南丹羽環境管理組合において処理を行っていますが、今後もこの関係を維持していくことが望ましく、関係市町で計画内容の食い違いが生じないように相互調整を行い、さらなる広域的な処理体制についての検討も行っていきます。」

現行の1市2町の処理体制を維持しながら、さらなる広域的な処理体制を検討していく旨を記載したものとなっております。

以上で、ごみ処理基本計画の概要版についての説明を終わります。

続きまして、江南市ごみ処理基本計画改訂版の案に関するパブリックコメントの結果と「市の考え方」について説明させていただきたいと思えます。

江南市ごみ処理基本計画改訂版の案に関する意見募集を去る1月7日から2月6日までの1か月間行いました。意見を提出された方は3名で、意見の件数は8件でした。

意見の概要と市の考え方について、読み上げてさせていただきます。

ごみのリサイクル率に関する意見の概要を申し上げます。

「江南市のごみのリサイクル率は県下の10万人以上の市ではトップとなっておりますが、これは非常に都合のよい数字ではないでしょうか。人口10万人以上50万人未満の市のトップは小金井市の48.4%がトップで、大きく引き離されており、今やごみ処理先進地とは言えません。一層の努力を期待します。」

この意見に対する市の考え方について申し上げます。

「江南市では、平成10年2月から全市を挙げてごみ減量「57(こうなん)運動」を実施してきました。その結果として、県下でもトップクラスのリサイクル率(平成24年度:28.9%)を維持してきました。今後は、リサイクル率の向上に主眼を置くのではなく、リサイクルを量よりも質の面から捉えて、レアメタル(希少金属)の回収を促進するなど、循環資源を高度に利用し、これまでよりも一歩踏み込んだ形で循環型社会の形成を推進していきたいと考えております。」

ごみ減量の推進に関する意見の概要について申し上げます。

「減量目標に対する考え方が、「江南市ではごみ減量が県内でも進んでいる現状にあり、市民の生活や事業環境に革新的な変革がない場合、大幅な低減は困難であると考えられます。」となっておりますが、これは、江南市がごみ減量の推進を放棄するものに等しい表現です。この表現を削除し、国、県の数値に縛られるのではなく、さらに市民と協働してごみ減量を推進する表現に改めてください。」

この意見に対する市の考え方について申し上げます。

「ご指摘いただいた部分の表現は、あくまでも江南市の現状を分析したものであり、今後のごみ減量推進の放棄を意図するものではありません。市としましては、今後も、資源ごみの分別排出に向けた情報提供や環境の整備を行うなど、ごみ減量に向けた取り組みを一層推進していくことと併せて、循環を質の面からも捉えて、これまでよりも一歩踏み込んだ形で循環型社会の形成を推進していくことを考えています。」

なお、指摘箇所の表現については、市民との協働を踏まえた取り組み強化の必要性を示す表現に改めていきたいと考えております。」

次に、基本理念の目標に関する意見の概要について申し上げます。

「環境負荷を最小限に抑える」とする基本理念の目標として、「限りなく焼却ごみのゼロを目指す」ことを計画に明記してほしい。」

この意見に対する市の考え方について申し上げます。

「市としましては、「環境負荷を最小限に抑え 資源を有効利用する 協働・循環

型のまち」を基本理念とし、市民・事業者・行政の協働により、循環の質にも着目した取り組みを進め、「協働・循環型のまち」の実現を目指すことを考えています。」

次に、ごみ減量目標値に関する意見の概要について申し上げます。

「市民1人1日あたりのごみ排出量の目標値について、減量目標値を大幅に引き上げ、家庭系可燃ごみは平成31年度目標を10%減の357g、平成36年度目標を30%減の278g、事業系可燃ごみは平成31年度目標を20%減の110g、平成36年度目標を40%減の83gに改めてほしい。」

この意見に対する市の考え方について申し上げます。

「市民1人1日あたりのごみ排出量の目標値については、市のごみ排出の現況と国及び愛知県の目標値を考慮して設定しています。」

次に、ごみの収集方式に関する意見の概要について申し上げます。

「ごみ排出者個人の責任を明確にするため、可燃ごみ、資源ごみともに戸別収集方式に切り替えてほしい。収集した資源ごみの分別センターを設置すれば、収集の簡易化が可能になると考える。」

この意見に対する市の考え方について申し上げます。

「可燃ごみ、資源ごみともに、収集運搬、中間処理については、基本的には現状と同様の内容で継続することを考えております。ただし、資源ごみの回収拠点・回数については、排出の利便性向上を図るため、拡大・増加を検討していきます。」

次に、粗大ごみの収集方式に関する意見の概要について申し上げます。

「粗大ごみの基準を「60cm」から「1m」に変更し、品目ごとの料金制を採用してほしい。また、粗大ごみの集積センターを設置して、持ち込みができるようにしてほしい。」

この意見に対する市の考え方について申し上げます。

「粗大ごみの基準等については、搬入先となっている江南丹羽環境管理組合を構成する江南市、大口町、扶桑町との相互調整により定めているため、現状と同様の内容で継続することを考えております。」

次に、生ごみの資源化に関する意見の概要について申し上げます。

「生ごみの資源化に本格的に取り組むことを計画に明記してほしい。」

この意見に対する市の考え方について申し上げます。

「生ごみの資源化については、臭気・場所の選定等について課題があるため、自主

事業所を訪問してごみ分別を指導したということで、資料が出されていますが、事務局から説明をお願いします。

○事務局

1月26日から1月31日までの間に事業所訪問を実施しました。コンビニエンスストア11店舗を訪問して、店長から話を聞きました。紙類の分別徹底されていないケースも見られました。分別の徹底について、3店舗に口頭で指導しました。

各店舗で、家庭ごみを持ち込んで捨てられているという現状が報告され、7～9割のごみが家庭ごみだということでした。一部の店舗で、ごみ箱を店舗内に設置するところがありました。

○会長

ごみ処理基本計画改訂版に関する議論はこれで終わります。次は、1年間、ご参加いただいた地区区長の代表者の委員の皆様から、地区の現状等についてお話いただきたいと思います。

○委員

地区では、分別はしっかりできています。以前は通勤途中の人が可燃ごみ置場にごみを捨てていくことがありましたが、そういうことはなくなっております。資源ごみの収集について、午前6時30分から7時30分まで集中的に実施して効率的に取り組んでいます。

○委員

地区に、ボランティア分別指導員として8年から10年間活動していて、ごみ分別を熟知の方が2、3名いらっしゃいます。

プラスチック製容器包装の回収について、意見があります。一宮市や名古屋市では週1回実施されていますが、江南市は月2回と少なくなっています。土曜日の旧清掃事務所の臨時回収もありますが、プラスチック製容器包装の回収回数が少ないと思います。

資源ごみ回収が月1回の場合もありますが、月2回実施を原則として守っていただきたいと思います。

○委員

ごみが増える一方だと感じています。トレーなど包装の種類が増えています。社会全体で考え方を变えて、もっと包装の種類を減らしていく必要があると思います。

○会長

各種団体代表者の方からも、現状等について意見を伺いたいと思います。

○委員

業者が空き地等にリサイクルできる物を集める場所を設置していますが、そこで集められた資源の量は、市のごみ収集量のデータに含まれているのでしょうか。

○事務局

リサイクル業者が空き地やホームセンターなどで、資源の無料回収所を設置する事例が多くなっています。そのような場所で収集された資源の量は、市のごみ収集量のデータに含まれていません。

○委員

パブリックコメントで、より高いごみ減量目標を記載するべきだという意見が出されてきました。14ページの1人1日当たりのごみ量の目標値が平成31年度と平成36年度が同じ数値になっていますが、それでは、努力する必要がないと思われてしまいます。平成25年度から、平成31年度にかけても、ほとんど数値に変化がありません。

現状では、住民が極限までごみを少なくしているように見えないのですが、市ではごみの減量が極限まで行われているというイメージを持っているのですか。

○事務局

コンサルタントと協議したところ、ごみの量は下げ止まりとなるという助言をいただきました。ごみ有料化に取り組み、さらに減らせると思いますが、今の時点では有料化ではなく、分別の啓発活動を強化することを考えています。大幅な減量は難しいと思います。

○委員

事業系ごみが分別されずに出された場合、一般廃棄物収集運搬許可業者が分別しているのでしょうか。

○事務局

分別されずに出された場合、一般廃棄物収集運搬許可業者は分別せずに、そのまま江南丹羽環境管理組合の焼却施設に搬入することが多いと思います。

○委員

資源ごみ収集について、地区では、朝6時から8時までに集積所に出すことになっていますが、6時より前にごみが捨てられることが多くなっています。その処理に時

間がかかっています。

○会長

貴重なご意見をありがとうございました。ごみをどうすれば減らすことができるのか、廃棄物減量等推進協議会で検討することが必要ですが、今回は時間がありません。

ごみ減量について、一つひとつできることから考え、取り組んでいくことが必要だと思います。

○課長

江南市ごみ処理基本計画改訂版の案について、様々な提言をいただき、ありがとうございました。基本計画改訂版の案の作成に参考にさせていただきたいと思います。

— 以上 —